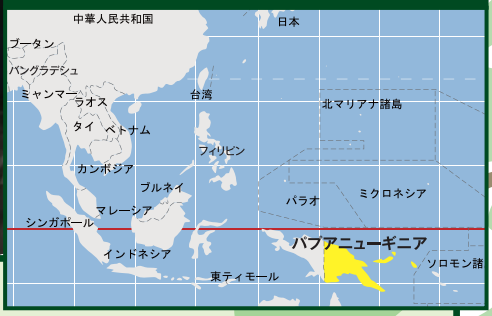
活動案内 2013

# 「子供の森」計画

## in パプアニューギニア

「子供の森」計画積極展開地域：
ニューブリテン島ならびに周辺の島々



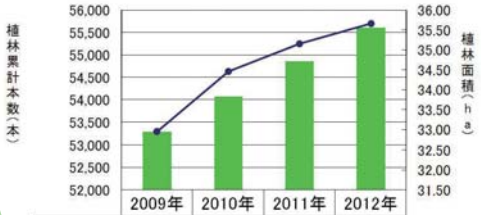

©LAYUP

## 2012年の活動と2013年の展望

子どもたちが学校や地域で苗木を植えて育てていく活動を通して「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。パプアニューギニアではニューブリテン島の学校を中心に「子供の森」計画を推進していますが、この地域の多くの住民は農漁業などで生計を立てており、自然と密接な関わりをもって生活をしています。森は、水や肥えた土など農漁業に必要な環境を与えてくれるだけでなく、果実や動植物などの食糧も地域の人々に与えてくれます。このように森に大きく依存して生活している人々が多い地域ですが、近年、乱開発が進み森林が急速に失われてしまっています。そこで「子供の森」計画では、森と人との関わり、そして森や生物の多様性を守っていくことの大切さを子どもたち、そして地域の人たちに教えています。子どもたちが地域の大人たちも巻き込みながら、自分たちのふるさとの森を守っていくために行動できるよう、これからもより広い地域で活動を進めていきたいと考えています。

2012 年植林実績：植林 **758** 本・面積 **0.5** ha
「子供の森」計画参加学校数：**47** 校（1994 年からの累計値）

## 2012年までの植林実績




| | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 |
|---|---|---|---|---|
| 本数（本） | 53,286 | 54,066 | 54,851 | 55,609 |
| 面積（ha） | 32.96 | 34.46 | 35.16 | 35.66 |

### パプアニューギニア

◆人口：6.66百万人
（2012年IMF推計値　日本は127.896百万人）
◆面積：462,840km²
（総務省統計局資料2010年値　日本は377,950km²）
◆一人当たりGDP：1,900.266US$
（2012年10月IMF試算値　日本は45,869.72US$）
◆森林率：63%
（2010年FAO公表値　日本は69%）

パプアニューギニアの活動を支援して下さる方を募集しています。
ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

**「子供の森」計画情報提供サイト**
**www.kodomono-mori.info**

**ベルマークや書き損じはがきも募集しています。**
ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。
事務局までお送りください。


事務局
公益財団法人 オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111 E-mail oisca@oisca.org
http://www.oisca.org/

2012年
活動レポート❶

## バリオラ小学校　Baliora Primary School

●活動開始年：2001 年　●生徒数：250 人　●所在地：Rabaul, East New Britain Province

# 森とともに育つ子どもたち

「子供の森」計画の活動に参加して10年以上が経つバリオラ小学校。学校の敷地内で立派に成長した森は子どもたちのお気に入りの場所となっています。

長年にわたって地道に植えられた木々は立派な森へと成長し、広くて涼しい木陰をつくり出しています。涼しい森の中で朝会が開かれ、子どもたちは空き時間を見つけては木陰に集まって遊んだり、マンゴーやスターフルーツなどの木の実を食べたりと、学校の森は大活躍です。

涼しい木陰での朝会

そんな森の恵みを感じながら学校での時間を過ごす子どもたち。環境に対する意識の変化も見られるようになってきました。積極的に植林に参加したり、木の手入れをしたり、環境保護の大切さについての授業にも熱心に参加しています。最近では、学校の敷地内で落ち葉や草を集めてたい肥を作り、苗木を植える時に使っています。森の成長とともに、子どもたちの環境保護意識も高まっています。

自慢の森をバックにみんなで

2012年
活動レポート❷

## クリフトン小学校　Clifton Primary School

●活動開始年：2006 年　●生徒数：200 人　●所在地：Rabaul, East New Britain Province

# 木の実を励みに頑張る子どもたち

クリフトン小学校は2006年から「子供の森」計画に参加している学校です。毎年苗木を植え、しっかりと育つように草を刈ったり、乾燥した草や木の葉を木の根元に敷くなどの手入れをしたり、環境保護の大切さを学ぶワークショップを開くなど熱心に活動しています。

校庭にはサワーソップやアボカドといった実のなる木やガラムット（ニューギニアチーク）などの在来種の木を植えることで、子どもたちが生物多様性の大切さを理解できるように樹種にも工夫しています。

2012年、このように活動してきた結果、「子供の森」計画に仲間入りして初めての活動で植えた木に実がなり、それを食べようと小鳥やオオコウモリが森に来るようになりました。特にさわやかな味のラウラウ（ジャワフトモモ）の実は子どもたちにも大人気で、授業が終わるやいなや、木に登り赤く熟した実を採っては口に入れ、大喜びです。

木の実の味や、木陰で本を読んだりお昼ごはんを食べたりする楽しさを知った子どもたち。先輩たちから引き継いだ森を次の世代へ引き継いでいけるよう、これからも頑張って活動することでしょう。

ラウラウの木に登り実を食べる子どもたち

## TOPICS

### 森の恵みを守るために

自然豊かなバイニング山脈に住む人たちは、森から得られるものを食べて生活しています。例えば、イリンガと呼ばれる木の枝に似た昆虫は、プロテイン源として村人たちの食卓に上り、アーホン（ショウガ科）と呼ばれる大地につぼみを現して赤い花を開く植物は、その花の甘い蜜が子どもたちのちょっとしたおやつになります。

しかし近年、この地域でも開発が進み、人々が今後も森の恵みを享受できるのかが危ぶまれています。「子供の森」計画の活動を通じて、環境を守る大切さを学んでいます。

木の枝に似たイリンガ

甘いアーホンの花

子どもたちの活動の様子や国情報の一部を紹介しています。
他のレポートや地域の情報はホームページをご覧ください。 OISCA CFP 検索